

事務事業名		吉浜診療所運営事業		<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画掲載事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略掲載事業
政策体系	政策名	0   2   安心が確保されたまちづくりの推進		事業期間	
	施策名	0   8   生涯にわたる健康づくりの推進		区分	
	基本事業名	0   2   地域医療の充実		単年度繰返	
根拠法令		国民健康保険法第82条、国民健康保険条例第5条、国民健康保険診療所設置条例		※期間欄に開始年度を記入	
所属	部課名	市民生活部国保医療課		【開始年度】	
	課長名	佐々木 直央		平成13 年度～	
	係名	越喜来診療所	電話	0192-44-2103	
	担当者	中嶋 聖志	内線	-	
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)	

地域住民の医療の確保と健康の保持増進を目的とする事業				<table border="1"> <tr> <td rowspan="7">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="4">事業費</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費計 (A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費計 (B)</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">トータルコスト(A)+(B)</td> <td>0</td> <td></td> </tr> </table>		総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計 (A)	0	人件費			正規職員従事人数			延べ業務時間			人件費計 (B)	0		トータルコスト(A)+(B)		0	
総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金																																	
		都道府県支出金																																	
		地方債																																	
		その他																																	
	一般財源																																		
	事業費計 (A)	0																																	
	人件費																																		
正規職員従事人数																																			
延べ業務時間																																			
人件費計 (B)	0																																		
トータルコスト(A)+(B)		0																																	
<p>主な業務は次のとおり。</p> <p>①診療業務(【水・金】9:00～12:00)</p> <p>②往診(随時)・訪問診療(計画により)業務。</p> <p>事業費の内容は、医療用消耗品購入費、医療機器等賃借料、医薬材料費(薬剤等)、施設維持管理費(光熱水費)、医療事務委託費などが主である。</p> <p>平成30年以降、常勤医師を招聘し、綾里診療所(月・木曜日、午前)兼務し小児科及び内科診療を行ってきた。診療体制の変更に伴い、令和2年度からは、診療日を(水・金曜日、午前)に変更し、会計年度任用職員の医師が診療にあたっている。</p>																																			

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		名称	
①疾病患者に対する診療、指導。②往診(患者から依頼を受け随時対応)・訪問診療。		ア	診療日数
			日
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	往診・訪問診療件数
前年度と同じ		ウ	
			件
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
主に吉浜地区の住民		名称	
		カ	行政区内人口
			人
		キ	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
病気を治す。 病気を予防する。		名称	
		ク	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		サ	延べ患者数
早期に適切な医療が受けられ、地区住民の健康増進が図られる。			人
		シ	健康であると感じている人の割合
			%
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

		年度	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(目標)	7年度(目標)
		単位						
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
		都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	10,696	4,872	5,339	3,877	3,877
		一般財源	千円	5,009	10,497	9,098	7,116	7,116
	事業費計 (A)		千円	15,705	15,369	14,437	10,993	10,993
	人件費	正規職員従事人数	人	5	5	5	5	5
		延べ業務時間	時間	2,400	2,400	2,500	2,500	2,500
		人件費計 (B)	千円	9,600	9,600	10,000	10,000	10,000
		トータルコスト(A)+(B)		千円	25,305	24,969	24,437	20,993
⑤活動指標	ア	日	99	97	101	96	96	
	イ	件	57	47	47	102	102	
	ウ							
⑥対象指標	カ	人	1,171	1,142	1,102	1,065	1,065	
	キ							
	ク							
⑦成果指標	サ	人	541	675	858	912	912	
	シ	%	55	57.7	57.6	58.5	58.5	
	ス							

事務事業ID	0307	事務事業名	吉浜診療所運営事業
--------	------	-------	-----------

<b>(3) 事務事業の環境変化・住民意見等</b>	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	地域医療の確保と健康の保持増進を目的とし、昭和31年9月から三陸村国民健康保険吉浜診療所として開設された。その後、昭和42年4月から町制施行により三陸町国民健康保険吉浜診療所と改称。平成10年4月、診療所を移設新築。平成13年11月15日、大船渡市との合併により大船渡市国民健康保険吉浜診療所と改称されている。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	平成28年9月に医師が退職してからは、暫定的に医師の派遣を受け診療を続けていた。 平成30年1月から常勤医師を招聘し綾里診療所兼務として小児科及び内科診療を行っている。 令和2年4月に医科診療所の診療体制を変更し、綾里診療所兼務として内科診療を行っている。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	令和元年度までは週5日(月～金)の診療を行っていたが、診療体制の変更により、令和2年度から週2日(水・金)の診療とした。それに対して、一部の患者から診療日数を増やしてほしいとの要望がある。

2 評価の部(SEE) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	▽ 理由・内容 地域の医療ニーズに応えるべくこの事務事業を推進し、成果(病気の治療)をあげることで、市民一人ひとりの健康づくりの一環として重要な役割を果たしていることから政策体系と結びつく。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	▽ 理由・内容 三陸地区にはほかの医療機関(開業医等)の進出が困難なことから、市が実施主体とならなければ地域住民の医療の確保と健康の保持増進を図ることが不可能であることから関与は妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	▽ 理由・内容 吉浜地域において唯一の医療機関であるため、対象・意図の拡大又は縮小の余地はない。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない	▽ 理由・内容 患者が求める医療の質を確保できれば、利用が増える可能性はあるが、医師の確保が難しいため、吉浜診療所と綾里診療所を医師が兼務している。今の体制が現状として最も効率的と思われる、現時点でこれ以上の見直しの余地はない。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	▽ 理由・内容 患者の大半は高齢者であり、移動手段の確保等の問題から、市中心部への医療の受診が難しい。また、往診・訪問診療など在宅において医療を受けている患者にも影響が出ることが懸念されるため、事業を廃止・休止できない。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	▽ 理由・内容 事業費の主なものには人件費、診療材料費、施設管理費(光熱水費、警備委託等)であり、削減した場合、診療に支障を及ぼし事務事業成果が低下することから、事業費の削減の余地はない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	▽ 理由・内容 現在の業務所要時間が最低限の所要時間である。所要時間を削減すると、診療時間に影響を及ぼすことになり、サービスの低下を招く。医療業務は専門的知識・資格が必要であり、また、医療事故等の危険・責任もあることから、臨時職員対応での業務は難しいため不可能である。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	▽ 理由・内容 患者窓口負担の割合が、国で定めた診療報酬により全国均一で定められている。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																				
1 現状維持	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	向上				維持		●	×	低下		×	×	当面、現状維持とするものの、少子高齢化の進展や人口減少に伴い、患者数は年々減少傾向にあることから、医療従事者の人材確保を含めて、安定した診療所運営により、住民の誰もが健康かつ安心して暮らすことができるよう、地域医療を市内全体で俯瞰しながら、診療所の在り方についても、検討する時期となっている。
	コスト																					
	削減	維持	増加																			
向上																						
維持		●	×																			
低下		×	×																			
※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
1 現状維持	現状維持とするが、医療従事者の人材確保を含めて、将来にわたり住民の健康が維持されるよう診療所の経営改革が必要な時期にあると捉え、今後、外部の意見も取り入れながら、診療所の在り方について早期に検討する。